

## 6. おわりに

本プロジェクトのスタートは、三重大学が法人化を迎えた時であった。大学が、学部が変わらなければならないという雰囲気の中、これまでの学生教育や社会（地域）貢献、研究推進のあり方を見つめ直そうという動きが芽生えていた。PBL教育とは、そのような背景の中で選択された三重大学の方針である。それを信じたメンバーが集まり、教員養成に適したPBL教育を模索し始めたのである。

その結果、現場で学ぶことの大切さだけでなく、従来からある一斉講義型の授業の良さもみえてきた。教育学部という複雑な組織において、いかにお互いの領域を認め合い、教育・研究スタイルを尊重することができるか、それがPBL教育推進の鍵であるように思われる。

最後に、本プロジェクトメンバーのひとり、故廣岡秀一氏の言葉を引用し、本報告を締めくくりたい。(代表：松本金矢)

専門領域の違う研究者が、真の意味で協働するということは不可能であると思う。しかし、たとえ不可能であったとしても、一緒に膝を交えて話し合い、協働しようとするには意味がある。

廣岡秀一